

シンポジウムS4 次世代人類学は何をめざすか？

11月4日 A会場 15:00-16:40

オーガナイザー：太田博樹（北里大・医）・河村正二（東京大・新領域）

21世紀になって既に17年が経ち生命科学にかかわる技術的進歩は加速を続けている。総合科学たる自然人類学はある意味で岐路に立たされているかもしれない。明らかになってきた生命現象の様々な知見にたち、もう一度「ヒトとは何か？」を問い直す必要がある。技術の進歩にともない、従来と異なった角度から生命が捉えられ、また新たな知見がもたらされている。本シンポジウムでは、最先端技術をもちいて生命科学に取り組む異分野の研究者が集い、それぞれのフィールドの現状を解説するとともに、それらのテクノロジーを人類進化および多様性の研究に如何に応用していくか議論する。

S4-1 エピゲノム研究：最近の進歩と人類進化・多様性研究への応用／中林 一彦（成育医療研究センター）

S4-2 数千人規模の日本人全ゲノムリファレンスパネルと今後／長崎 正朗（東北大・東北メディカル・メガバンク機構）

S4-3 エネルギー代謝システムの多様化に関与するエピジェネティクスの探索／中山 一大（東京大・新領域）

S4-4 ゲノムヒト化モデルに向けたゲノム編集技術／吉見 一人（大阪大・医）